

## 8月号 病害虫防除

今年は8月上旬頃までの果樹カメムシ類（以下カメムシ）の発生量が多いと予想されるため、こまめに園内を見て回り、早期発見に努めるとともに、確認した場合は早急に防除を行って下さい。

暑い中での作業となりますが、体調に気をつけながら病害虫対策や管理作業を行いましよう。

### 〈果樹類共通 果樹カメムシ類〉

佐賀県農業技術防除センターから発表された令和2年6月5日付け病害虫発生予察注意報第1号によると、予察灯およびフェロモントラップでのカメムシの誘殺虫数が多く、一部地域ではモモ、スモモ、キウイフルーツ等の果樹園への飛来や果実での被害が確認されています。また、カメムシの餌となるヒノキ樹の毬果の結実状況は、やや少～極少と少ないため、今後果樹園への飛来が増加し被害が発生することが危惧されます。

カメムシの発生状況や飛来状況は地域や園によって異なりますので、発生状況についての情報（農業技術防除センターHP：<http://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>）に掲載）を参考にするとともに、定期的に園内を見回り、カメムシの飛来や加害が確認された場合は早急に薬剤による防除を行ってください。有袋栽培であっても、果実と袋の密着面から吸汁されることがありますので、カメムシの発生には注意が必要です。

また、ヒノキやスギなどを防風樹として使用している園では、毬果が結実している部分があれば早急に刈り込んで除去して下さい。

### 〈露地カンキツ類〉

#### ○褐色腐敗病対策、黒点病対策

8月以降は褐色腐敗病の発生に注意が必要です。本病は、土壤中に生息する病原菌が雨滴等により跳ね上がり果実に付着し、感染・発病する病気です。そのため、マルチを設置し土壤中からの菌のはね上がりを防止することや、下垂枝の枝吊りを行い地表面から離すことで果実への感染を減らします。発病した果実は伝染源となるため、早急に除去し、園外に持ち出し適切に処分して下さい。

また、この時期は黒点病の防除も必要な時期ですので、両病害に効果の高いマンゼブ水和剤（ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤）を散布します。（※両薬剤とも、温州ミカンは400倍・収穫30日前まで、その他カンキツ類では600倍・収穫90日前までで、使用回数は4回以内）

#### ○かいよう病対策

本病は、台風等の強風雨により発病が助長されます。台風等の襲来が予想される場合は、襲来後の防除では効果が劣るため、台風襲来7日前～前日までにコサイド3000 2,000倍（クレフノン200倍加用）などの銅水和剤を散布します。

特に前年にかいよう病が多発した園や、かいよう病に弱い品種（ネーブルやはるみなどの中晩柑類）、幼木や高接樹、高糖系温州ミカン、隔年交互結実栽培の遊休年の園では、防除を徹底して下さい。なお、ボルドー剤は高温時の散布により薬害（スターメラノーズ）を生じるおそれがありますので、使用を避けましょう。

○害虫対策

8月はミカンハダニやチャノキイロアザミウマ、ミカンサビダニ等複数の害虫の防除が必要な時期です。表を参考にして、対象とする害虫に効果のある薬剤を選択して下さい。

薬剤はかけムラがないよう丁寧に散布しましょう。特にミカンハダニの防除では、低密度時の防除を心がけるとともに、抵抗性の発達を防止するために同じ系統の薬剤の使用は年1回のみでの使用とし、昨年使用した系統の薬剤は使用しないで下さい。

近年は春先から気温が高く推移することで、害虫の発生が以前よりも早まる傾向にあります。園内を観察し、害虫の発生初期からの防除を徹底しましょう。

表 露地カンキツの害虫対策に使用する薬剤の例

対象害虫		薬剤	希釈倍数
チャノキイロアザミウマ	+ミカンサビダニ	コテツフロアブル	4,000倍
		マツチ乳剤	3,000倍
		ハチハチフロアブル	2,000倍
	+カイガラムシ	モスピランSL液剤	2,000倍
		ダントツ水溶剤	2,000倍
	+カメムシ類	アルパリン(スタークル)顆粒水溶剤	2,000倍
テルスター水和剤		1,000倍	
ミカンハダニ	+ミカンサビダニ	ダニゲッターフロアブル	2,000倍
		ダブルフェースフロアブル	2,000倍
		メビウスフロアブル	2,000倍
ミカンハダニのみの場合		コロマイト水和剤	2,000倍
		カネマイトフロアブル	1,000倍
		スターマイトフロアブル	2,000倍
		ダニコングフロアブル	2,000倍

<施設中晩柑>

○‘不知火’の汚れ果症対策

汚れ果症は、高湿度条件で発生が多くなりますが、マンゼブ水和剤の散布が有効です。露地栽培の黒点病防除と同様に、マンゼブ水和剤を前回散布後の露地における累積降雨量250mmまたは薬剤散布後1か月を目安として散布すると、高い効果が期待できます。ただし、園内の湿度が高く結露が長時間にわたって続くような園では十分な薬剤防除の効果が出ませんので、換気などを行って果実が結露しないように努めましょう。また、薬剤はかけムラがないように丁寧に散布して下さい。

<ナシ>

○黒星病・炭疽病対策

この時期は黒星病と炭疽病の両病害に対する防除が必要となります。

‘幸水’と‘豊水’などが混植された園では、‘幸水’は果実に薬液による汚れが残りやすいことや収穫前日数に留意して、収穫14日前～収穫前日までは、アミスター10フロアブル1,000倍(収穫前日まで)やストロビードライフロアブル3000倍(収穫前日まで)を散布して下さい。

‘幸水’が混植されていない、‘豊水’などの園では、収穫14日前まではオキシラン水和剤500倍、オーソサイド水和剤800倍などを散布し、それ以降収穫前日までは、果実の汚れに配慮してアミスター10フロアブル1,000倍などを散布して下さい。

‘幸水’のみ植栽している園では、収穫後にデランフロアブル1,000倍（収穫60日前まで）、キノンドーフロアブル1,000倍（収穫3日前まで）を散布します。周囲に収穫が終了していない園があれば、農薬が飛散しないように注意して散布を行って下さい。

#### ○害虫対策

シンクイムシ類やハマキムシ類対策として収穫までは7~10日前後の間隔で殺虫剤を散布します。テルスター水和剤1,000倍（収穫前日まで、ただし‘幸水’では汚れに注意）、スカウトフロアブル2,000倍（収穫前日まで）、アグロスリン水和剤1,000~2,000倍（収穫前日まで、ただし‘幸水’では汚れに注意）などの合成ピレスロイド剤は両種に有効です。ネオニコチノイド系剤（アルバリン/スタークル顆粒水溶剤、モスピラン水溶剤など）は、ナシヒメシンクイには有効ですが、ハマキムシ類に対する効果は劣るので注意して下さい。

ハダニ類が発生した場合は、コロマイト水和剤2,000倍、カネマイトフロアブル1,000倍などの殺ダニ剤で対応します。発生初期からの防除が最も効果的であるため、収穫後であってもこまめに足を運んで発生状況を観察し、発生を確認したら早急に防除を行って下さい。

フタモンマダラメイガ対策としては、9月上旬頃にフェニックスフロアブルを主幹・主枝に対して十分量を散布します。その場合SSでは薬液が付着しにくいので、できる限り手散布を行って下さい。本虫については今月号で特集していますので参考にして下さい。

#### <ブドウ>

##### ○べと病対策

ICボルドー66D 50倍、ICボルドー48Q 50倍のいずれかを散布します。いずれの薬剤も展着剤のアピオンE1,000倍を加用することで防除効果、耐雨性が高まります。なお、薬剤の散布間隔は20日以上空けないようにして下さい。

#### <モモ>

##### ○コスカシバ対策

8月上旬から9月上旬はコスカシバ若齢幼虫の幹への侵入が多い時期です。ガットサイドS 1.5倍を葉にかからないよう注意し、樹幹部及び主枝のみに塗布します。

#### <カキ>

##### ○炭疽病対策

8月中下旬頃から果実に炭疽病が感染しやすくなるため、ジマンダイセン水和剤500倍（収穫45日前まで）やエムダイファー水和剤500倍（収穫45日前まで）などを散布し、果実での発生を防ぎましょう。

薬剤散布後に累積降雨量が150~200mmに達した時点もしくは散布後20日を経過した時点で再散布を行ってください。なお、軟弱徒長した夏枝は柔らかいため、炭疽病にかかりやすく果実への伝染源となりますので、不要な徒長枝は必ず剪除して下さい。

○うどんこ病対策

うどんこ病は、早期落葉の原因となります。ストロビードライフロアブル3,000倍（収穫14日前まで）やトリフミン水和剤2,000倍（収穫前日まで）などを散布します。